

NPO☆Kyoken通信



梅雨号

☆特定非営利活動法人教育研究所(問題行動研究会事務局) 98号 平成22年6月1日発行

〒233-0013横浜市港南区丸山台2-26-20 TEL:045-848-3761/FAX:045-848-3742

URL: <http://kyoken.org/>

E-mail: contact@kyoken.org

今どきの若者、コミュニケーションスキルや人間関係力の不足が言われているが

根底にあるのは「社会性の欠落」

明治以降、身分制度の崩壊とともに、特別な家柄の人を除き、親の職業、イエに縛らずに生きることが可能となった。そして、明治政府は「富国強兵」のもと、明治5年に学校教育が始まった。

明治以降の経済発展によって様々な職業が生まれた。家柄や身分に関係なく、様々な職業選択の自由が保証され、資格や知識・経験によって自分の力で自己実現が可能になった。特に戦後において、1960年から80年までの高度経済成長の時代は、学歴がひとつの身分制度に変わるような学歴偏重の歪んだ学校教育が行われるようになった。

教育のめざすところは、本来「人格の完成」であり、学歴という形式よりは、人徳や知識といった内容が重んじられなければならないものであった。内容より形式偏重は自ずと、歪みを生じさせる。

1964年、東京オリンピックが開催された時、東京で約半数の人は自営業者であり、四大卒は15%に満たなかった。オリンピック後、日本の高度経済成長は目ざましく年率15%近くの経済成長を生んでいた。金の卵と呼ばれ、中学を卒業したばかりの少年少女は東京に向い。東北地方の農民は冬になると出稼ぎに都市に向った。また、自営業者は会社員へ、転業し、高度経済成長の担い手になって行った。

大企業のサラリーマンで大卒者はホワイトカラーと呼ばれ、エリート街道が保証されていた。

そのため、高学歴者の親はもとよりのこと、ブルーカラーと呼ばれていた人でも、自分の子には、しっかりと勉強させ、良い高校→一流大学卒→一流企業に入り終身雇用・年功序列制度の恩を受けさせたいと願った。そして、そのコースを歩むことが子どもにとって、最も幸せな人生であるという神話ができあがり、その設計図通りに子育てをすることが親としても、最高の幸せと思い描いた。

そして、サラリーマン家庭では「教育投資」として、塾や予備校などに通わせる人が

多くなった。そして、いつのまにか教育は、人格の完成をめざすものではなく、人々が要求する受験に合格し、高学歴をつけるための補助機関になり果て、利益を生むための道具としての教育産業になってしまった。時代に流された教育界の敗退であった。

子どもの側からみると、勉強が良く出来た、素直な、真面目な、疑問を持たない子にとっては、親や先生の期待通りにスイスイと進めたが、多くの子にとっては、親の期待通りに競争を勝ち抜かないと、自己実現には結び付かない。また、例え、それなりの成果を学校で納めても、自分の夢が大きければ、大きいほど、現実には自己実現は大変難しいことはいうまでもない。

(文責 牟田武生)

Kyoken通信ヘッドライン

- ◎ 基金訓練・合宿型自立支援プログラムがはじまりました。
- ◎ 今時の若者、社会的育ちが悪いのは「なぜ」新たな教育的な試みへ(中)
- ◎ 第20回教師&専門家のための問題行動研修会の概要が決まりました。

合宿型自立支援プログラムはじまる

～若者自立塾に変わる新たな事業～

宇奈月自立塾 寮長 牟田光生

基金訓練合宿型若者自立プログラム科が始まって1ヶ月が経ちました。従来の若者自立塾に比べ、随時入塾ではないので入塾のタイミングが難しいところもあり、それらに受け入れる側も慣れていかなければなりません。そこで、プレ入塾という形で少しでも寮生活に慣れてから、訓練に移行出来たらよいと考えています。

寮生活とは？

私自身高校3年間と浪人1年間を高知県の学校で寮生活をして過ごしてきました。高校3年間は先輩後輩同部屋で6人部屋でした。高校1年の時は部活に生活に学校(勉強はおろそかでしたが...)に必死でした。15, 6で親元を離れ、遠い高知での生活はとにかく毎日が一生懸命で部活に上下関係(寮でも部活でも)とにかく必死でした、当時は苦しい思いしかなかったですが、今振り返ると、あの体験が今に生きているし、自分の根本はあそこの生活だったのだと認識出来ます。

何を認識していたのかと言うと...

ずばり！人間関係です。

知り合いの先輩等も居ないし、慣れない土佐弁・関西弁の中で喋るといっても、色々な表現をしていかなければならないことを肌で感じていました。

喋ると言うことは、意思表示すること・合わせること・気を使うこと・敬語丁寧語の徹底を後輩達に、恐さではなく、いかに分かってもらえるかの表現力でした。

それらを肌で学んでいたのだなあと、今になって思います。
人間関係でも、私はさして強くなかったのですが、部活で主将をやらせていただき、私らの代は県下で負けて終わるのですが、後輩は全国大会に出場しました。後輩の方が強かったなあ...
それでも上下関係の中で強さ以外の指導力ということで悩み、次第に身につけていったのではと感じています。
勉強は本当に出来ませんでした、そういった人間関係力を形成してくれた高校の寮生活だった、と痛感しております。それと、人間は相手の顔色や具合・状況を見て、人間関係の戦略を变幻自在に変える生き物です。
例えば...
お小遣いでは買えない高価な遊び道具を親にねだる時、ひと昔前の子供達は親の顔色を見て、「今日は機嫌悪そうだから、明日にしよう」そんな日におねだりをすると、テストや成績のことを持ち出され、やり込められてしまうからです。で、機嫌の良さそうな時などを見計らってさりげなく陳情する。とか、昔は携帯電話が無かった時代ですから、異性をデートに電話で誘う時も...「父親が出たら間違えたフリをして、今日は止めにしよう」とか、「今は塾から帰ってきている時間でチャンスだ!」とか相手を考えて様々な戦略を練り、子供ながらに智恵を働かせていたものです。
それら全てが子供でも戦略や智恵を働かせて、携帯やPCが無くとも上手くやっていたし、様々な人や多人数の兄弟がいたとしたら、否が応でも人間関係や自分の立ち位置、相手の状況を頭に入れ、自然と計算できるスキルが身につけていたものです。
そういった目に見えない人間関係でのスキルを習得するには寮生活と言うのは非常に適した環境だと言えます。
親は自然に習得していったそういったスキルは子供達には学ぶ環境がない。
故にそういったスキルが育ちにくい。
もう一度宇奈月温泉でそういったスキルを身につけ、社会に出た方が生きやすいのではないかな...と新緑の息吹を感じながら思う今日この頃です。基金訓練合宿型若者自立プログラム科が始まって1ヶ月がたった。

宇奈月自立塾スタッフから

新しく宇奈月自立塾のスタッフになった林 智里です。
スタッフとしてまだまだ未熟者ですが、塾のみなさんと一緒に色々な事を学び経験し成長していきたいと思っています。

4月26日から基金訓練・合宿型若者自立プログラム科がスタートしました。

4月基金訓練第一期生は日々社会復帰に向けて頑張っています。

いつも失敗ばかりの毎日で落ち込むことも多くありますが、社会復帰に向けて頑張る彼らの姿を見て、私ももっと色々な事を学び経験しなければと日々励まされます。

合宿型の自立支援というと、「他人との共同生活は怖い」「他人と一緒に共同生活は疲れる」「自由がないからいやだ」「ゲームが好きな時にできない」などなど・・・共同生活についてちょっと敬遠しがちな言葉を聞きます。特にひきこもっている人は大半を家で過ごし

ていたため余計に他人との共同生活が怖いのかもかもしれません。

通所型の自立支援は一日のプログラムが終わると家に戻れる安心感があるのですが、合宿型の自立支援は家から離れなければいけないため最初の一步がなかなか踏み出せない人が多い・・・。

だけど、最初の一步さえ踏み出せば、その後の人生は変わっていきますよ。

そして、共同生活だからこそその良さはたくさんあります。

人と人が自然と触れ合う機会が多くなる共同生活は過去に受けた人間関係の傷を癒し、新たなコミュニケーション能力を自然につけていけると思います。

人間関係で受けた傷は人間関係のなかでしか癒せない、ゲームやアニメは楽しいけれど本当には心の傷を癒すことはできない・・・。

真の人と人の関わりあい、それは、ゲームやアニメよりも楽しく素晴らしいものである！と思っています。社会には心の傷をつける人間もいれば、逆にそれを癒す人間もいる。

人間の真の幸せとはなにか？幸せは与えられるだけでは幸せとは感じません。自分が誰かに幸せを与えられるようになってこそ、真の幸せの意味を感じるのだと思います。

人に幸せを与えられるようになるには、まずは自立した人間を目指すこと、ひきこもった人から見たらとても大きな目標に見えますが、亀さんのようにゆっくり一步一步歩いてでも前に進んでいけばきっと辿りつけます。塾生のみなさんと一緒に私も歩いていきたいと思っています。

今時の若者、社会的育ちが悪いのは「なぜ」 新たな教育的な試みへ（中）

牟田 武生

なぜ、どうしてそうなるの？

前回のお話では、「めんどくさい、かつたるいの心理」のメカニズムのお話をしました。今回は「大人になれない、大人たち」のお話です。このお話の主題は「子どもの社会性」をどう育むかです。社会性が十分に育たないから、欲求に趣く行動だけし、自分の社会的責任をとらずに回避したり、ひきこもったりします。

そんな特別のことではなく、普通の大学生が宿泊の伴う大学のオリエンテーション中ちょっとしたトラブルで、大泣きしてしまうことが最近多くなりました。ひと昔前の小学校の光景と同じようなことが、今の大学のキャンパスでは見られます。

責任を取りたくない。だから、責任のかかる正社員より、いわれたことだけをやる非正規の仕事の方が気楽でよい。結婚や子育てなんて、全く興味がない。親のような苦勞はしたくはない。という若い人が多いのも事実です。

これを実現可能にしたのは（社会状況）

- ・成熟社会という「過去の遺産による経済的な豊かさ」

これがいつまで続くのかという不安を感じない国民性

・形骸化した教育

学校教育においては社会人や家庭人として、有用な人間を育てるといった全人格教育の視点がみられない。

家庭教育においても、ほとんどの家庭では「家の教育方針はこうだ」といった方針がなく、企業管理社会が要求していた受験教育に迎合するような姿勢がみられる。しかし、受験競争はピラミッド型（振落原理）と、子どもたちに夢を与えた「自己実現」＝（教育産業の拡大）という言葉の現実的な矛盾。（イエに縛られない自由な職業選択は新卒者一括雇用がなくなった現在、フリータ及びニートの増加になった。高校では職業科が敬遠され、なんの実用的な技術を持たない普通科卒の増加。なりの果てはオーバードクター「博士課程卒の就職難」ツブシが利かず、ニート化現象。法科大学院大学も同じ憂き目に！歯科医師養成大学の大幅定員割れの状況。

※ キーワード「若者にとってはホープレスの社会出現」

そんな時代の若者の特徴

自分が「これからどう生きるか」向き合わない。

「葛藤なし」葛藤のあったモラトリアムとの違い。なぜ、向き合わないのか、
60年代～70年代 社会に「異議申し立て」を若者がすることに社会的意義を感じた。
70年代～90年代 「同棲時代」滅公活私の時代「個人の尊重＝自由な生き方」信仰
90年代～00年代 バブル全盛期 「時代と寝ている時代」保守的＝金権主義隆盛期
00年代～10年代 就職氷河期 「時代にさめている」 政治不信、世界的な不況
60年代～70年代 モラトリアムの時代
80年代～00年代 ア・パシーの時代
00年代～ ニュータイプ アダルト・チュルドレン

モラトリアム型人間（70年代）⇒現実逃避としての思考停止がア・パシーに変わる（00年代）⇒オタクが好きなことに没頭（90年代後半）⇒パラサイトシングルに代表されるような寄生した生き方の人間の登場（00年代後半）⇒それに続く、就職氷河期（現実社会の厳しさ）を逃れる。⇒それを理由にした寄生型植物人間の登場 ニュータイプ アダルト・チュルドレン「父性性のない、母子共依存（注1）気味の子」軽度の人を「草食系男子」ともいう。

重症化すると、

何にもやろうとせず、趣味の仮想現実の中で生きようとし、例え、アルバイトしても長続きしない。何か理由をつけてやめる。あるいは仕事に就かず、自己と向き合うことをしないので、葛藤や悩みもなく、大学生時代を延々と続かせる。

※（注1） TBSドラマ「ずっとあなたが好きだった」冬彦さん現象 1992年、マザコンの冬彦が主人公のドラマ、高視聴率をあげる。「母子共依存」の出現

自分では気付いてはいないが、彼らの抱えている問題

自己を社会の中で投影できない。社会に対して冷めた感覚が無気力や無感動を生んだ。そして、ニュータイプのアダルト・チュルドレンは生まれた。

特徴として

- ・無駄使いはしないが、消費性向の強い、非生産的で大人になろうとしない人
- ・社会的責任は取りたくない人
- ・否定されたり、追詰めたりすると、他罰的（注2）で何かを原因にし、現実からスルーする。
- ・現実社会より、漫画やアニメの影響を多大に受け、それを人生観とする。
- ・仮想社会と現実社会が入り乱れた思考性を持つ、消費型人間。

精神疾患のある人との相違

- ・退却神経症は悩みながら社会から離れていくから（違う）
- ・社会不安症は悩みながら社会に参加できない（違う）

明確な悩みはない。

※（注2）普通、他罰的な人間は自己を正当化し、自己弁護のために他人を責めるが、そこに罪悪感はなく、現状の自己を正当化し、葛藤はない。（成熟化社会の落とし子ともいえる）（向上心や建設的な意見は死語に）

また、自尊感情や自己有用感が低いために、社会に出ると様々な障害が起き、他罰的な感情から反社会的行動（犯罪）を起こすこともある。しかし、その感情は対社会や他人に向かわず、家族にしばしば向けられる。（家庭内殺人、家庭内暴力）

自罰＝自分自身に向かう「みんな、自分が悪いからこうなった」と思い込み必要以上に自分を責める。

他罰＝他人に向かう

自罰・他罰は、心理構造は似かよっている。自尊感情や自己有用感が低いため起きる。（内弁慶）

問題点は生きることに葛藤がない。

本来、人間は「太った豚よりも痩せたソクラテスの方が美しい。」のだが…。

「自分はいったいなんだろうか」

「これから自分はどう生きるべきか」

「人生とはいったいなんだろうか」といった思春期の哲学的、観念的な悩みはほとんどない自己と向き合うことのない思春期。

三太郎の日記（阿部次郎）、人生論ノート（三木清）、現代青春論（亀井勝一郎）、古寺巡礼（和辻哲郎）などは今の若者は読まない。

悩まない若者、しかし、うつになる＝人間関係のスキルがない。

人間関係のスキルの土台は、自我の確立と生き方の哲学と自己表現力であるはずだが、今の時代は表面的なテクニック論で終わっている。　続く（講演会レジメより）

「第 20 回教師 & 専門家のための問題行動研修会」

開催主旨

不登校児童・生徒数は教育機関を含め関連機関の対策や努力の結果、平成 14 年度から全国的に人数及び出現率に於いても減少に転じました。しかし、18 年度より増加に転じ予断を許さない状況にあります。高校生の不登校や中退者も同様です。最近では不登校児童生徒が長期間ひきこもり、20 歳を越えニートになっていく、一つの要因になることも分かってきました。

今年度、新しく書き換えられた文部科学省の学校・教員向けの生徒指導書の基本書ともいえる「生徒指導提要」では、不登校は心の問題のみとしてとらえるのではなく、社会的自立に向けて自らの進路を主体的に形成、生きて行き方の支援としています。この問題は長期化すると、社会的ひきこもりを含め、二次的問題を引き起こしていきます。

不登校は“学校を 30 日以上欠席している”という現象ですが、その中には軽度発達障害を含め、児童虐待・いじめ・非行・暴力行為・高校中退・学習遅滞・友達や先生との人間関係・子ども自身の心の問題・親子関係等、様々な問題が含まれています。

不登校問題に対処する時、学校教育、心理、社会福祉、医学、保育、社会学等、広範囲の領域において様々な対応が必要となります。しかし、残念ながら、一領域の対応が中心なために必ずしも効果的ではありません。総合的かつ連携的な取り組みへの理解者及び援助者の育成が急務になってきております。

20 年目を迎える今年度は特別企画として『不登校 20 年間でふり返る』をテーマに、生徒指導提要の座長を務め、この研修会においても 20 年連続して講師を務めて頂いた大阪樟蔭女子大学長森田洋司先生にご教授賜ります。また、2 日目は様々な問題について、ワークショップを開催し、参加者の皆さま方とともに、この問題について、議論を含め、具体的な解決に向けて考えていきます。

幼児教育、生徒指導、養護、相談室の先生方だけでなく、子ども達に係わる全ての先生方が参加できるように配慮してあります。また、児童相談所の相談員の方、福祉関係、児童民生委員の方々など不登校・ひきこもりや軽度発達障害にかかわる領域で仕事されている方々を参加対象に行います。

講師の先生方は実際の不登校児童・生徒及び軽度発達障害等のそれぞれの専門分野で活躍する我が国を代表する先生方をお招きしております。

受講される皆様が不登校や LD・ADHD・高機能自閉症に関する理解と取り組み（対応）を様々な角度から学び、その実践に生かして頂くことができれば幸に存じます。

・受講対象

- ・ 教師及び教育関係者、児童相談所相談員、精神保健福祉など関係職
- ・ 教育相談担当者（カウンセラー・セラピスト・臨床心理士・ケースワーカー・ソーシャルワーカー・社会福祉士・医療関係者・学生も可）
- ・ その他、不登校にかかわる領域で研究をしている方

・日時

- ・ 平成 22 年 8 月 23 日（月）から 8 月 24 日（火）（全 2 日間） 定員 400 名

・会場

- ・ (独) 国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟小ホール他
- ・ 主催：特定非営利活動法人教育研究所問題行動研究会
- ・ 後援：文部科学省（申請中）・全国都道府県教育委員会連合会・教育新聞社

8月23日(月)〈定員400名 講義&質疑形式〉

日	時間	講師
8月23日 (月)	10:30~11:50	【基調講演】 大阪樟蔭女子大学学長 文部科学省生徒指導提要座長 森田洋司
	13:00~13:50	文部科学省初等中等局 児童生徒課担当官予定
	14:00~16:50	シンポジウム 「不登校や発達障害者の自立とは」 親・体験者 前山形県立山形聾学校長・東北文教大学講師 共栄客員教授・山形県自閉症協会会長 花輪敏男 毎日新聞社編集委員 野沢和弘 特定非営利活動法人教育研究所理事長・問題行動研究会幹事 牟田武生

※敬称略

8月24日(火)〈定員 1グループ30名・ワークショップ形式〉

テーマ 「不登校20年をふり返る。そして、今後は…」

金子 保 元国際学院埼玉短期大学教授・さいたま市教育相談センター所長

花輪 敏男 前山形県立山形聾学校長・東北文教大学講師

共栄客員教授・山形県自閉症協会会長

牟田 武生 特定非営利活動法人教育研究所理事長・問題行動研究会幹事

日程	午前	午後1	午後2			
8月24日 (火)	10:30~ 12:00	各講師による ワークショップ①	13:30~ 15:00	各講師による ワークショップ②	15:20~ 16:50	各講師による ワークショップ ③

◎ 教育研究所6・7月講演会スケジュール

4月から6月まで全体のテーマは「育ちそこねた若者をどうするか」です

6月19日(土) 13時から17時	横浜	京急線上大岡駅前ウイリング横浜 6F 会議室 演題 「解決策なし。ネット依存をどうするか」 講師 牟田 武生
6月27日(日) 13時から17時	富山	富山県民会館 演題 「子どもの社会性をどう育てるか」 講師 牟田 武生
7月18日(土) 13時から17時	富山	富山県民会館 演題 「解決策なし。ネット依存をどうするか」 講師 牟田 武生

※ 6月19日(土) 午前10時~12時 NPO法人教育研究所総会を予定しています

◎ グループカウンセリングのお知らせ

宇奈月でグループカウンセリングを実施します。
グループカウンセリングは、7名前後の参加者とカウンセラーが行なう小集団のカウンセリングです。
牟田先生のグループカウンセリングです。今回は三回シリーズになります。
日程、参加申し込みは下記の通りです。

◎ 日程

・富山宇奈月（AHE ビルカウンセリングルーム）

一回目	二回目	三回目
5月9日（日）	6月27日（日）	7月19日（日）

※ 時間はいずれも午前9：30～11：30です

.....

—グループカウンセリング申込書— 参加希望の方はF a xまたはメールでお申込み下さい

参加者氏名	
住所	〒
TEL	
Email	

※ グループカウンセリング費用 ￥9,000（￥3,000×3回） 会員の方は特典があります

ます

F A X 045-848-3742

メール contact@kyoken.org

NPO 法人教育研究所の会員の申し込みについてのご連絡

従来、会員の皆様には会費を年会費として一律5,000円お支払いいただいておりますが、平成21年1月から、1口5,000円としてお申し込みをいただきたく存じます。

昨年度の牟田先生の緊急入院に際しまして、皆様方の温かいご支援をいただき、教育研究所も何とか再建の方向で動き出すことが出来ました。牟田先生も少しずつ現場に復帰出来るまで回復し、カウンセリング、講演などの活動を始めました。

ただ、教育研究所の運営はまだ不安定な状況であり、運営の母体となる年会費を皆様にご協力していただけるよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

会員の特典も新しく追加しておりますのでご検討いただければ幸いです。

○ 会員の有効期間はお支払いいただいた時から、1年間の有効期間となります。

○ 年会費

※ 1口 ¥5,000 (1口増えるごとに ¥5,000 加算されます)

※ 銀行ご利用の場合は下記の口座にお支払いください。その場合は、必ずご自身のお名前を入れてください。よろしくお願い致します。

新しく会員の申込をされる方は、下記の申込書でご連絡ください。

会費納入口座は 北陸銀行 宇奈月支店
(ホクリクギンコウ ウナヅキシテン)
名義 特定非営利活動法人教育研究所
(普) 5014010

郵便振替 00230-9-112182 特定非営利活動法人教育研究所

会員の方には、

○ カウンセリング料の割引 1万5千円→1万円

○ 年5回程度の定期通信の発行

○ 講演会などのイベントのお知らせ

○ お母さんたちのミニ図書館の利用

・ 新特典

○ グループカウンセリングの割引(1口につき1回無料)

※ グループカウンセリングは年3回、横浜・宇奈月で実施します。

○ 教育研究所温泉宿泊施設(AEHビル)をご家族で利用できます。(会員割引があります)

.....

新規入会申込書 (新しく会員になる方は郵送か FAX またはメールでご連絡ください)

(郵便振替でお申込みいただく方は必要ありません)

入会者氏名	
住所	〒

郵送先 〒233-0013 横浜市港南区丸山台 2-26-20

Fax 045-848-3742

2010年「特定非営利活動法人教育研究所うなづきの活動案内」

・ 宿泊型フリースクール・・・

・ ネット依存・・・ネット依存に陥ってしまった若者に現実社会の豊かさを学び、ネットに対して自己規制出来るようになるためには、共同生活の効果が非常に高いということが分かってきました。日本で始めての本格的なネット依存治療コースです。プログラムは治療から学校及び社会復帰まで含まれています。状態に応じて3ヶ月コースと6ヶ月コースがあります。

費用、寮費、教育費、カウンセリング。月 150,000 円（ケースワーク費用は別途になります）【定員 10名】

・ 短期体験合宿・・・5泊6日の体験コースです。基本的には各コースの入塾のための体験合宿です。（年4回程度）35,000円、 【定員 6名】

・ 自立塾OBのフォローワーク

コース	内容	寮費（1ヶ月）
A	カウンセリング&ケースワーク+生活指導+就労体験+就職支援（全てを含むケア）	150,000円
B	就職活動&アルバイトの世話、ケースワークなど	105,000円
C	寮からの正規就労（3食付き）	70,000円

※ 寮費の中には、食事代、寮費を含みます。（Dコースは食事代別です）

その他アルバイト&就労している方には布団使用料月 1,000円、駐車料月 1,000円（別途）が掛かります。

短期体験合宿以外の上記希望者は随時受付をしています。（但し、事前面接が必要です）

※ 各コースとも定員になり次第締切ります

・ 保護者のための研修会 （1泊2日）とグループカウンセリング（日帰り）

子どもや若者への対応や親としてやらなければいけないこと、子どもの再登校、社会復帰のためにしなければならないことを集中的に学びます。（年3回程度）18,000円

自立塾以外は合宿所として富山県黒部市宇奈月温泉「NPO教育研究所AHEビル」を使用。

教育研究所伝言板

継続して寄附を求めています

専用寄附口座 横浜銀行 上永谷支店 店番号 323 口座番号 1442822

名義人 特定非営利活動法人 教育研究所（寄付）理事長 牟田 武生

ソフトボールや軟式野球で使うグローブやバットで使わなくなったものが、ございましたら、ご寄附ください。（送料は負担します）

ボランティア募集中

教科指導の補助出来る方（英語・数学・国語）

カウンセリングやケースワークの臨床をしたい方。

時間講師募集中！ 高卒認程度の教科指導できる方。

技術をお持ちの方で、定年退職され、その技術を若者に伝え、若者の自立支援に役立ちたい方

お母さんたちの交流会のお知らせ☆

「毎月 5～6 人が集まって、お茶を飲みながらおしゃべりに花を咲かせています。共通する悩みを持つもの同士、気軽な気持ちで、息抜きにでも参加して頂ければいいなと思っています。」（卒業生の母より）

- ・同時に親の会ミニ図書館を開催。
- ・会員の方ならどなたでも利用可。
- ・不登校やひきこもりに関する本や心理の本等が 300 冊以上あります。

ぜひご利用下さい。予約の必要はありません。

毎月第 4 土曜日午後 1 時から 4 時頃まで

NPO 教育研究所横浜事務所にて

参加希望者は教育研究所までお願いします。



編集後記

牟田武生ブログ <http://www.konayami.com/muta/> をお読みの方はもうご存じだと思うが、4月17日に愛知県豊川市で起きた。15年間ひきこもり、ネット依存の岩瀬高之（30）容疑者が起こして、一家5人殺傷事件を受けて忙しい毎日だった。豊川の事件は7日に起訴され、やれやれと思っていたところ、今日、東大阪で32歳のひきこもりの女性が、面識のない小学校2年生を出刃包丁で刺し重傷負わせる事件が起きた。

犯罪者の職業が無職とあるのは良くあるが、家族とは殆ど会話しないひきこもりの人が町に出て子どもを刺した事件だ。ひきこもりの人が全部犯罪者ではないが、また、ひきこもりの人に対する世間の風当たりが強くなるような気がする。

ひきこもりは本人や家族だけが悪いのではない。なぜ、病気でない長期間にわたるひきこもりが日本だけに起こるのか、もう一度考えればよい。ひきこもった人の多くの人を見ると、みんな社会性が育っていない。それが主要な原因である。

社会性は個人の努力や家族だけでは身につかない。地域や国によるシステムがないと育たない。まだ貧しい時代は皆協力して働いたが、成熟社会になり、この欠点が不登校・ひきこもりになって現れた。戦後の日本の国づくりは「社会性を育てる」という発想がぬけていた。

(ム)